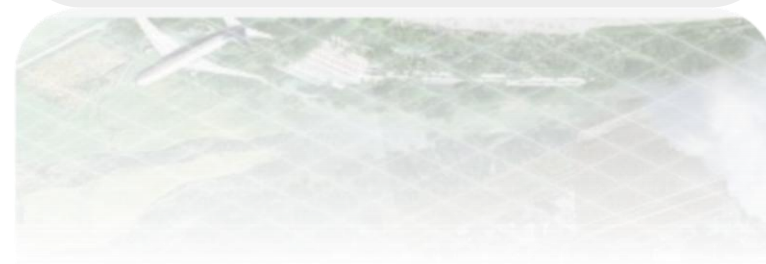




準天頂衛星システム「みちびき」 に関する最新動向

2026年 9月10日 衛星測位WG

内閣府 宇宙開発戦略推進事務局
準天頂衛星システム戦略室



最新動向

- みちびき 7 号機打上げ報告
- 令和 9 年度予算案、日本成長戦略会議の進捗
- 宇宙基本計画改定に向けて
- （参考）次期G空間基本計画骨子、みちびき実証事業等、みちびき関連の各種取組（対外広報、サービス改善等）

準天頂衛星システム「みちびき7号機」打上げ結果（概要）

1. 打上げ日時

- 日時： **令和8年8月11日（火） 4:23:31**
- 射場： JAXA種子島宇宙センター（鹿児島県）

2. H3ロケット9号機の概要 ※みちびき6号機の打上げとほぼ同じ

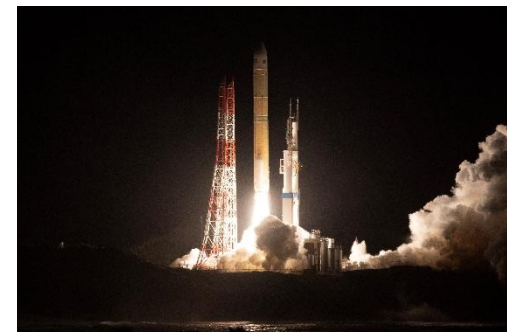
- 構成： 2段式＋固体補助ブースタ2本（H3-22S）
- 重量： 約422トン、全長：約57m、直径：約5.2m
- 搭載衛星： **準天頂衛星システム「みちびき7号機」**
- 投入軌道： 準静止軌道（QGEO）

※高度は静止軌道と同じ。静止軌道ではゼロになっている軌道傾斜角と軌道離心率が少し与えられた軌道。地上からは、わずかに動くように見える。

3. みちびき7号機の打上後スケジュール

- ～ 約0.5ヶ月 準静止軌道への到達
- ～ 約2ヶ月強 衛星搭載機器の機能確認完了
- ～ 約3ヶ月 End to End 確認
- ～ 約5ヶ月 測位チューニング 完了
- 約7か月後 測位サービス提供開始**

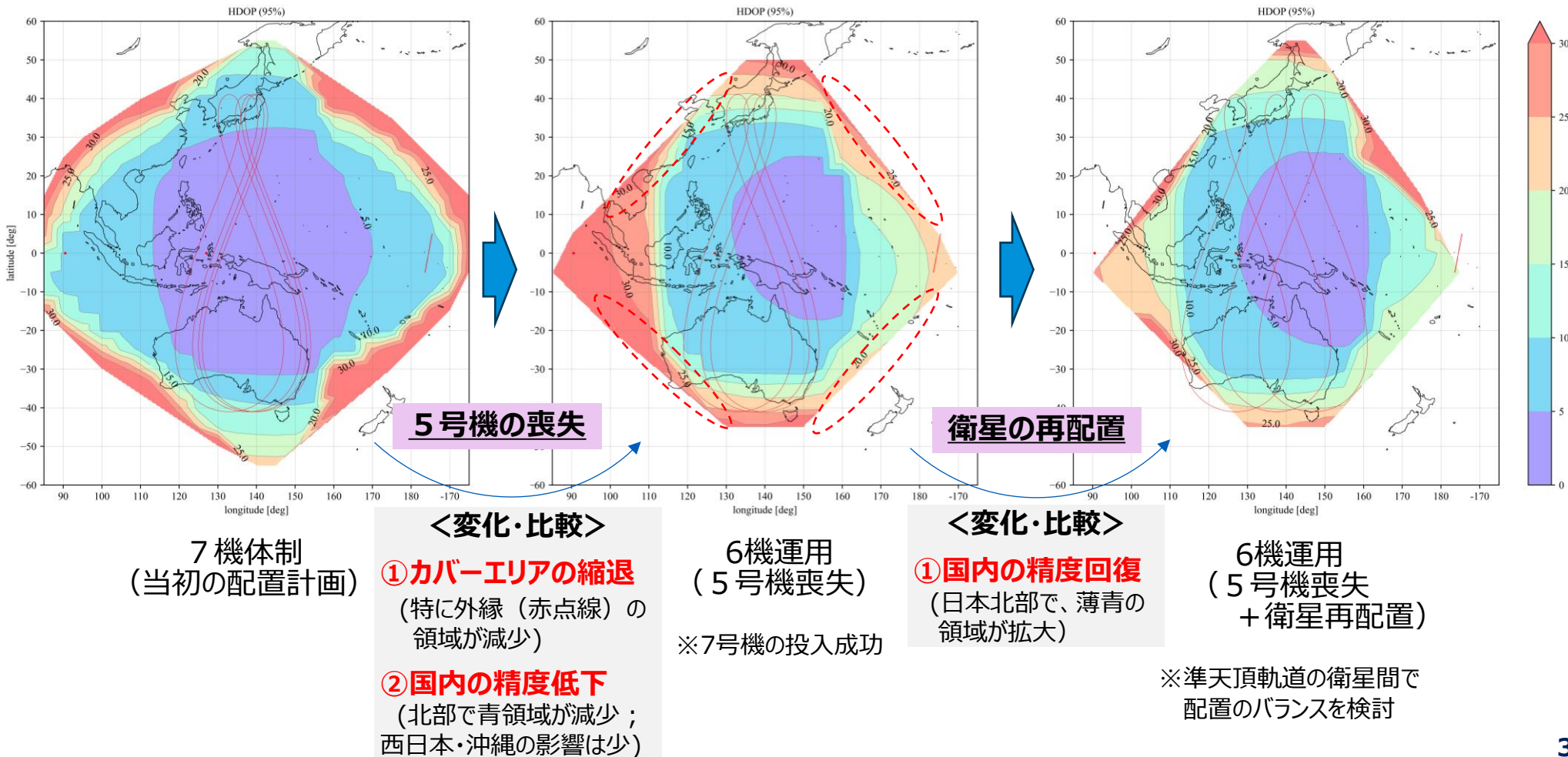
みちびき7号機



みちびき 5 号機喪失の影響および当面の対応

- みちびき 5 号機は喪失したが、運用中の5機で、高精度測位を含み安定した測位サービスを提供中。
- 一方、他国に頼らず「みちびき」のみで測位可能な **7 機体制**と比較して、測位精度、高仰角性等は低下。
- 衛星の再配置により、日本国内の精度への影響をなるべく低減する。
- 今後、測位サービスの安定供給に向けて、**みちびき 7 機体制の早期構築、11機体制の開発加速**に尽力。

「みちびき」のみの衛星測位サービスの測位精度（水平方向）



宇宙開発戦略推進事務局 令和9年度概算要求

1. 宇宙戦略基金の拡充（総務省、文部科学省、経済産業省と連携）

（R7補正2,000.0億円【総務省：310億円、文科省：950億円、経産省：740億円】）

R9要求 1,286.5億円(3省合計)
※「強く豊かな日本」投資枠：1,286.5億円

- 速やかに総額1兆円規模の支援を行うことを目指すとともに、宇宙分野の継続的な発展に向けた、民間投資や宇宙実証の加速、国際競争力につながる特色ある技術の獲得・活用、産業の集積等を促進する観点から、企業や大学等の先端技術開発・技術実証・商業化支援を加速・強化

2. 実用準天頂衛星システムの開発・整備・運用

（R8当初169.1億円+R7補正171.2億円 計 340.3億円）

R9要求 869.8億円
※「強く豊かな日本」投資枠：644.6億円

- 他国に頼らず測位が可能となる7機体制の早期構築と、バックアップ機能の強化や利用可能領域の拡大が可能になる11機体制の構築を目指し、着手済の衛星開発（2・3・4号機後継機・8号機）の加速や、新たな衛星2機の開発着手、並びに地上設備の開発・整備を進める



準天頂衛星システム
「みちびき」

3. 成長戦略【ロケット・射場】を踏まえた打上げ役務のまとめ調達（新規）

R9要求 177.8億円
※「強く豊かな日本」投資枠：177.8億円

- 複数年度分（概ね5年先まで）の政府衛星等の打上げ役務の調達について、内閣府がまとめて予算要求・執行を行うことで、打上げ事業者への予見可能性向上を通じた民間投資の促進や政府の事務効率化に繋げる

※国庫債務負担行為(R9-13):
限度額 889.0億円

4. 宇宙開発利用推進費等（内閣府に一括計上後、各省に移し替えて執行）

（R8当初23.0億円+R7補正17.7億円 計 40.7億円）

R9要求 16.4億円

- 衛星・月面関連技術等、各省が連携して戦略的に取り組むべき技術開発を着実に推進



月面におけるエネルギー関連技術開発
（無線送電技術開発）

5. 小型SAR衛星コンステレーションの利用拡大に向けた政府調達支援（新規）

R9要求 10.0億円
※「強く豊かな日本」投資枠：10.0億円

- 政府関係機関による小型SAR衛星データの直接調達実現に向け、政府関係機関を試行ユーザとした防災・インフラ点検等の分野での試行利用を実施し、有効性・実用性・課題を評価する。3か年程度にわたって実施し、政府関係機関による調達に繋げる

6. その他（調査、事務費等）

（R8当初13.2億円）

R9要求 15.5億円

- 司令塔機能強化等に向けた機構・定員拡充等

R9要求合計 1089.5億円
※「強く豊かな日本」投資枠：832.4億円
（※宇宙戦略基金(他省庁要求)除く）

参考: R8当初 205.2億円、R7補正 188.9億円
（宇宙戦略基金 R7補正 2,000.0億円(3省計上)）

iii) 主な目標

- ・国内衛星の国内打上げ比率を2030～2040年累計で60～80%以上とし、打上げ費用の海外流出を縮小することを目指す。
- ・アジア・中東・欧州等の新規の衛星の打上げ需要を獲得し、2040年には最大3,000億円規模の打上げサービスの需要獲得を目指す。

iv) 主な施策

- ・ロケットの更なる高度化、高頻度打上げ、信頼性向上に向けた技術開発・実証を支援する。
- ・民間事業者の持つ技術力を最大限活用し、国内外の需要に対応するためのロケットの高頻度打上げを可能とする射場や試験設備等の整備を支援する。
- ・民間主導の取組を促す観点から、設備投資に係る予見性向上等に資するアンカーテナンシー²²を構築する。

⑤人工衛星・サービス

i) 重要性

人工衛星（通信・観測・測位等）とデータ利活用サービスは、防災・国土強靱化・安全保障等に直結する社会基盤であり、民間利用の拡大を背景に、2030年代には世界で約150兆円の市場が予測されている。衛星サービスのインフラに組み込まれる一部の重要部品・中核技術は海外が先行し、米欧中の企業が世界市場を席巻しつつある中、我が国の自律性を確保するとともに不可欠性の確保が急務である。

ii) 勝ち筋・方向性

我が国の官民の技術の強みをいかし、高精度観測、衛星光通信、軌道上サービス、高精度測位衛星で国内外の需要を獲得するため、アンカーテナンシーを通じた民間資金の呼び込みや、技術や地上局・設備等の開発・整備・サービス実装を促進する。

iii) 主な目標

- ・2030年代早期に国内企業等による衛星システムを5件以上構築し、主要な通信・衛星データ利用サービスを世界で新たに30件以上社会実装することを目指す。
- ・衛星の製造・運用と衛星通信・データの利活用で2040年に世界で約12兆円規模の市場獲得を目指す。

iv) 主な施策

- ・高精度観測衛星、衛星光通信、燃料補給等の軌道上サービス、高精度測位等の中核技術の開発やサービスの社会実装を支援する。また、安全保障・防災・インフラ点検・農林水産分野等のアンカーテナンシーの強化とそれによる民間資金の呼び込みを行う。
- ・国内外の市場獲得のためのサービス実装に向けた地上局等の産業基盤を強化するとともに、国際機関や各国政府との連携も通じ、海外市場開拓を支援する。
- ・JAXAについて、試験設備の強化や民間共用、民間への技術の橋渡しを行う。

⑥月面探査・低軌道技術

i) 重要性

米中を始め世界各国で開発競争が激化する中、安全保障も見据え、自律的な月面・地球低軌道へのアクセス確保が急務である。特に、民間企業による月面着陸機

²² 公共調達による初期需要確保。

2. 勝ち筋の特定と官民投資の具体像【道筋】

航空・宇宙
人工衛星・サービス

(1)基本戦略

① 勝ち筋

- ・通信・測位・観測衛星データ利活用等の需要側について政府によるアンカーテナンシーを通じて予見性をもたせつつ（需要側）、リアルタイム・高精度・複合観測・光通信・燃料補給等軌道上サービス・測位等の中核技術の開発や国内外の需要獲得を支えるサービス実現に向けた地上局等の設備整備等の産業基盤強化を促す（供給側）。これらにより、国際競争力を有するスケールの国産システムによる国家インフラの構築による自律性を確保するとともに、国外（他国）における不可欠性の確保も目指す。

② 我が国として構築すべき機能

- ・国内を中心とした技術開発・生産基盤の強化・試験施設等の整備、地上局を含むグローバル規模の衛星システムの構築、ユーザー官庁によるアンカーテナンシーの一層の促進。

(2)官民投資の具体像

① 投資内容

【継続】

- ・測位・観測等の官民衛星、衛星光通信、燃料補給等軌道上サービス、データ利用システム等の技術開発
- ・民間サービス拡大・競争力強化のためのJAXAによる技術の橋渡し・設備整備及び民間共用
- ・地理空間（G空間）情報の基盤となるみちびき7機体制の早期構築、11機体制に向けた開発加速
- ・情報収集衛星の10機体制が目指す情報収集能力の早期達成
- ・安全保障ニーズを踏まえた高度技術(RPO※)、デジタルツイン、オンボードAI処理等)の獲得
※接近・近傍活動(Rendezvous and Proximity Operations)。宇宙空間において衛星やデブリなどの対象物に対して、接近・近傍での操作を行う技術であり、宇宙領域把握や衛星防護のみならず、燃料補給やデブリ除去等のサービスでも活用が期待。

【新規】

- ・防災・インフラ点検・農林水産分野等の国土強靱化・社会課題解決、安全保障に資する我が国の衛星システムのアンカーテナンシーの強化
- ・我が国の宇宙分野における不可欠な存在としての国際的地位の獲得や持続的な国家インフラの構築に向けて、グローバルにサービス展開が可能な規模の衛星システムの中核技術（リアルタイム・高精度・複合観測、光通信・燃料補給サービス等）の獲得、サービスの開発、衛星配備、地上局等の設備投資等の社会実装加速化

② 投資額

2040年度までで6.4兆円と想定

③ 定量的インパクト：投資による経済波及効果

2040年度までで30.6兆円と想定

※出典：戦略17分野における「主要な製品・技術等」の官民投資ロードマップ 2026年7月21日 116

現行の宇宙基本計画における記載

- 宇宙開発戦略本部(2026/6/12)の総理指示を受け、現行の宇宙基本計画に関する記載を、今後アップデート予定。

<宇宙基本計画（令和5年6月13日 閣議決定）における“衛星測位”に関する記載>

2. 目標と将来像 (2) 国土強靱化・地球規模課題への対応とイノベーションの実現 (c) 衛星測位

我が国が測位能力を自立的に確保するために整備が進められている準天頂衛星システムは、我が国の安全保障の確保、社会課題の解決や産業・経済の活性化、防災・減災、国土強靱化において必要な位置・時刻情報を提供する社会インフラとして、さらに、アジア太平洋地域における社会インフラとして、その役割を果たしていくことを目指す。

今後、7機体制の確立により、我が国の衛星のみで測位が可能となる持続測位を実現することで、必要不可欠な社会インフラとして、一層の活用が期待される。一方、バックアップ機能を有する米国等の他国の衛星システムのように、衛星が故障した際にも安定的かつ継続的に利用できる信頼性の確保が、民生利用・安全保障の双方の観点から求められる。

同時に、準天頂衛星システムが提供する先進的な高精度測位サービスの活用により、将来的には、除雪や点検といったインフラの維持管理作業の効率化や、自動車やドローン、農機等の自動化・無人化によるスマートシティ、スマート農業の実現が期待され、人口減少に直面している我が国における労働力不足や高齢化等の社会課題の解決や、イノベーションによる日本経済の更なる活性化に大きく貢献すると見込まれる。このような将来を見据え、より使いやすい高精度測位サービスの提供を行うことで、高精度な地図等の地上側の情報と組み合わせたソリューションが社会実装され、更にそれが様々な分野に広がっていくことが期待される。

4. 宇宙政策に関する具体的アプローチ (1) 宇宙安全保障の確保に向けた具体的アプローチ (a) 宇宙安全保障のための宇宙システム利用の抜本的拡大【衛星測位機能の強化】

同盟国との協力により高い抗たん性を有する衛星測位機能を担保しつつ、自律測位の観点から準天頂衛星システムの機能性や信頼性を高め、衛星測位機能を強化する。そのため、準天頂衛星システムについて、7機体制から11機体制に向け、コスト縮減等を図りつつ、検討・開発に着手する。また、欧米における政策・研究開発動向を見据えつつ、将来システムの検討及び研究開発を進める。

なお、防衛省及び海上保安庁は、準天頂衛星を含む複数の測位信号の受信機の導入を推進する。また、防衛省は、宇宙空間での測位信号の活用について検討を進める。（内閣府、文部科学省、国土交通省、防衛省）

4. 宇宙政策に関する具体的アプローチ (2) 国土強靱化・地球規模課題への対応とイノベーションの実現に向けた具体的アプローチ (c) 準天頂衛星システム【7機体制の着実な構築と11機体制に向けた検討・開発着手】

持続測位を可能とする7機体制構築に向け、H3ロケットの開発状況を踏まえて、2023年度から2024年度にかけて順次準天頂衛星を打ち上げ、引き続き着実に開発・整備を進める。

自動運転、農業、交通・物流、建設等の様々な分野における準天頂衛星システムの更なる利活用促進に向け、必要な支援策、環境整備等に関する施策について関係省庁が連携して検討及び実施する。

防災利用については、「災害・危機管理通報サービス」の拡張や「衛星安否確認サービス」の運用を着実に進めるとともに、防災を所管する政府・地方公共団体の防災計画と整合を図りつつ、今後の防災関連サービスの在り方について、ユーザーの要望を踏まえ検討を進める。また、準天頂衛星システムがアジア太平洋地域での社会インフラとして貢献できるよう、海外向け高精度測位サービス（MADOCAPPP）や「災害・危機管理通報サービス」について、必要な機器の整備や人材育成等の政府間の連携を強化していく。

7機体制確立以降の将来的な準天頂衛星システムについて、普及期から本格的な利用への移行に向けて、バックアップ機能の導入による社会インフラとしての安定性・信頼性の向上や、先進的な製品・サービスの提供に向け、周囲にビル等の障害物があるような場所でも利用しやすい高精度測位サービスの実現といった、国内のユーザーからの要望に応えていく必要がある。測位サービスの安定供給を目的としたバックアップ機能の強化や利用可能領域の拡大のため、7機体制から11機体制に向け、コスト縮減等を図りつつ、検討・開発に着手する。将来の準天頂衛星システムの技術開発及び開発整備に当たっては、初号機システム及び5～7号機搭載ペイロード開発の成果や知見、次期測位技術の先行開発を行ってきたJAXAとの連携協力を更に強化拡大し、総合的なシステムとして効率的かつ着実に実施することが適切である。また、海外の技術動向や国内外のニーズを踏まえつつ、信頼性・機能性向上や抗たん性の強化等の測位技術の高度化や、主要技術の国産化を戦略的かつ継続的に進めるため、関係省庁・機関、産学官の協力を強化して推進する。（内閣官房、内閣府、総務省、外務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省等）

- 衛星測位については、「G空間社会を支える基盤技術」に位置付けられているほか、持続可能で強靱な測位（PNT）インフラの構築に取り組むべきとされている。

第5期 地理空間情報活用推進基本計画 骨子概要

現状認識

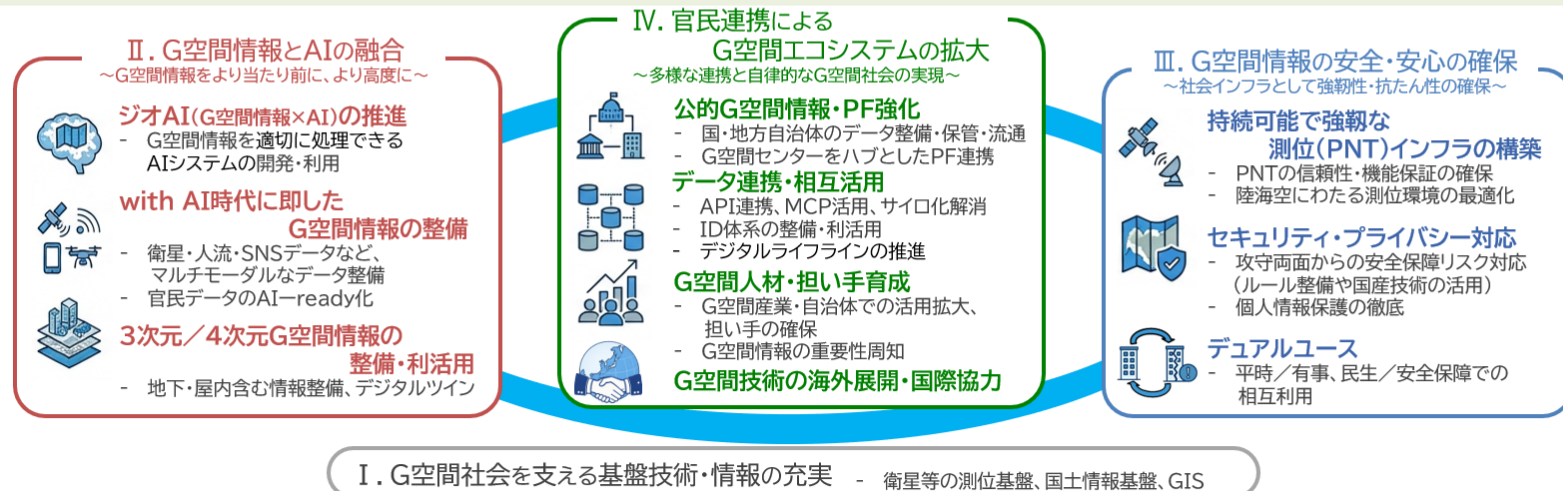
- 2007年の地理空間情報活用推進基本法の制定以降、20年近くわたる取組により、①準天頂衛星システム「みちびき」、②地理情報システム（GIS）、③電子国土基本図など、G空間社会の実現に向けた基盤技術の整備が進むとともに、地理空間情報は質・量ともに充実し、多くの分野で社会実装が進んできており、経済・社会各分野の諸活動に欠かせない「社会インフラ」となりつつある。
- 今後、生産年齢人口の減少や安全保障環境の変化などが加速化・顕在化する中、G空間を支える基盤技術とデータ整備をさらに進めるとともに、急速に進展するAI技術との融合も図りつつ、G空間情報は社会課題の解決と生産性向上を進める「次世代インフラ」としてその役割を確固たるものとしていくことが求められる。



G空間技術の社会実装事例
(自動運転、スマート農業、3D都市モデル、i-Construction)

目指す姿・基本方針

社会全体のDXや経済成長を生み出す共通基盤であるG空間情報について、AI技術との融合や、様々なリスクに対応した安全・安心の確保などによりG空間エコシステムの拡大を図り、国土から都市や地域、国・自治体から民間まで、G空間の基盤・技術・情報の社会実装を本格化。



具体的な推進方策

G空間共通基盤等重点戦略(仮称)を策定し、国益の観点から特に重要であって、各省庁横串を刺して取り組む「新たな共通基盤」となるプロジェクトを強力に推進。

「みちびき」実証事業の概要（令和8年度）

【みちびき公募実証】 みちびきの新たな活用を考えている企業を後押しする目的で、2018年度より実施。
2026年度で9期目。

○ これまではPFI事業で実施(2023年のみ政策経費として措置)しており、審査委員会を経て今年度は4件を採択。

No.	（公募）実証実験名	提案企業名（代表企業）	関連分野	使用サービス
1	みちびきCLASとMADOCA-PPPのハイブリッド測位によるトラクター自動運転安定化実証	AITOYA株式会社	農業 受信機	CLAS MADOCA-PPP
2	みちびきCLASを活用した位置誘導植栽機及び造林一貫作業システムの実証	有限会社大坂林業	林業	CLAS
3	みちびき信号認証を活用した、グローバルサプライチェーン向け「納品証明サービス」の実証	株式会社デジオン	信号認証 時刻情報 流通 (国際)	信号認証 時刻情報
4	自動走行ロボットの全国展開に向けたみちびきCLASでの公道走行検証	LOMBY株式会社	ロボット 自動運転 流通	CLAS

【みちびき企画実証】 みちびきサービスの普及や業界ルールへの導入等に資する提案について、内閣府との共同実証として実施する。今年度は1件を採択。

No.	（企画）実証実験名	提案企業名（代表企業）	関連分野	使用サービス
1	高専NWを活用した市販CLAS受信機の連続観測・品質評価実証	株式会社近計システム※	CLASモニタリング	CLAS

※茨城高専、熊本高専、仙台高専が参加して実施

2026年度 講演・展示会等への対応計画

参 考

R8.5

6

7

8

9

10

11

12

R9.1

2

3

政府
関係

宇宙基本計画工程表改訂
に向けた重点事項

宇宙基本計画工程表改訂
衛星測位に関する取組方針2026

展示会

6/17-20 CSPI-EXPO(幕張メッセ)

7月 種子島宇宙センター特別公開

7/15-17メンテナンス・レジリエンスTOKYO 2026(東京ビックサイト)

9/* 第5回ドローンサミット()

10/* うなまつり(沖縄県恩納村 ※沖縄宇宙通信所)

10/13-16 CEATEC2026 (幕張メッセ)

11/3 エレキ万博2026(ベルサール秋葉原)

11/* 筑波宇宙センター特別公開

1/* G空間EXPO (東京ビックサイト)

講演等

5/* 測位航法学会 全国大会 (東京海洋大)

6/* 日本航海学会GPS研究会春期講習会 ()

6/17-20 CSPI-EXPO(幕張メッセ)

7/15-17 メンテナンス・レジリエンスTOKYO 2026(東京ビックサイト)

9/* RPD Challenge Summer School(東京海洋大学)

10/* 機械技術検討会 基調講演(北海道開発局)

10/13-16 CEATEC2025 (幕張メッセ)

10/17-18 ぼうさいこくたい (鳥取県倉吉市エースバック未来中心)

10/29-31 APRSAF (タイ/ICONSIAM)

11/3 エレキ万博2025 (ベルサール秋葉原)

11/* 防災ログ オンラインセミナー(Web)

11/10-13 宇科連 (宇都宮)

11/* 地理空間情報の活用推進に関する北陸地方産学官連絡会議(石川)

11/*リアルタイム測位利用技術講習会(測量協会@小石川)

11/* G空間情報活用海外推進協議会:年次総会(日本橋)

11/30-12/4 NIHONBASHI SPACE WEEK (日本橋)

12/* ILS (虎ノ門ヒルズ)

1/* G空間EXPO (東京ビックサイト)

3/* MGA (シンガポール)

打上げ
その他

6/* みちびき公募実証プレゼン審査 (オンライン)

11/* みちびき公募実証中間報告会 (オンライン)

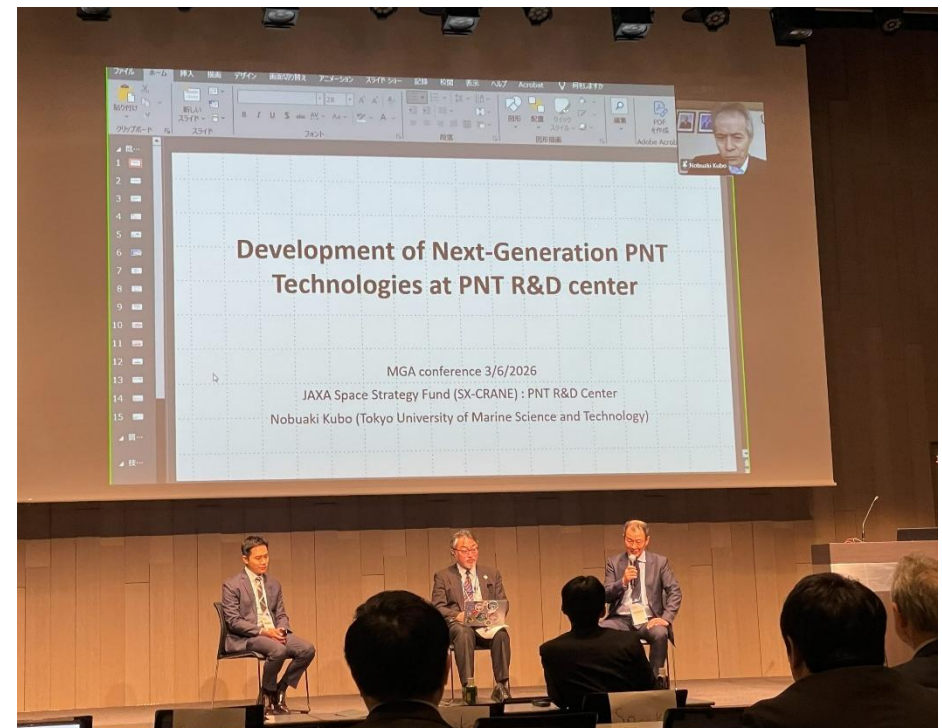
3/* みちびき公募実証成果報告会 (オンライン)

第16回MGAへの参加（3月、日本橋）

- ◆ MGA(Multi-GNSS Asia)は、国連宇宙部（UNOOSA）の国際衛星測位システム委員会(ICG)の正式活動として2010年に承認された位置情報利活用プラットフォーム。
- ◆ 我が国も、みちびき6号機運用開始やみちびき5号機の喪失、みちびき6機運用時の性能、MADOCA-PPPや信号認証サービス等を報告。
- ◆ 韓国は、KPS初号機の開発計画や打上げ予定など発表（中国はVISAの関係で参加みられず）。



<Providers Sessionの様子>



<Space Policy Landscapeの様子>

避難情報配信システムとの接続実証成果（3月、新潟県五泉市）

参考

- ◆ コンセプトは、災害時に自治体が利用している既存の避難指示配信システムと接続することで、所用の配信に加えて、新たな手順を追加することなく、みちびきからの災危通報の配信ができる（システムの配信先の1経路として災危通報サービスが利用できる）。
- ◆ 実証では、テスト環境を使用。操作者が情報入力後、既存の避難指示配信システムからのメール通知と同時に、みちびきからも同情報を受信したことを確認。
- ◆ また、災危通報による配信により、受診者に位置情報や避難指示を伝達することで、受診者の居場所に応じた情報を提供したことを確認。



イベント発生時刻(分)	災害イベント	実証実験開始からの経過時間(分)
T-10	自治体全域に地震発生	±0
T+00	駅南の飲食店から火災発生	+10
T+30	延焼と南西からの強風により、火災被害の危険範囲の拡大 指定避難先に避難誘導	+40
T+65	自治体全域で停電が発生	+75

実証シナリオ



コンセプト・実証内容説明

林業植栽機械化のためのみちびきを使った自動走行実証事業 (4月、合同会社ビスペル)

参 考

- ◆ 造林の機械化・省人化の第一歩として、既存のクローラーを改造することで苗木を植える穴を穿孔する重機を開発し、みちびきのCLASを使って自動走行・自動穿孔させる実証を行った。
- ◆ 重機を指定したルートに沿って自動走行させ、開発した特性アタッチメントによる自動穿孔を行う公開実証を静岡県富士宮市の富士森林組合の敷地内にて実施。
- ◆ みちびきの高精度測位を使用することで、これまで機械化・自動化が難しかった造林領域における省人化に繋がる事例となった。



PC・受信機等



重機の制御部分

- ◆ ION Pacific PNTは、2年に1回米国ハワイで開催される。アジアオセアニア域でのQZSSの重要なプレゼンスを示す機会。
- ◆ 我が国も、みちびき6号機のサービス開始や5号機の喪失、みちびき6機運用時の性能、MADOCA-PPPや信号認証サービス等を報告。
- ◆ 韓国は、KPS初号機の開発計画や打上げ予定など発表（中国はVISAの関係で参加みられず）。

このセッションに登壇

	PRINCE EDWARD ROOM	PRINCE DAVID ROOM	PRINCE JONAH ROOM
Mon. April 13	4:00 p.m.—6:00 p.m. Plenary Session (Prince Edward Room)		
Tuesday April 14	9:00 a.m. - 10:35 a.m. A1a: BeiDou	9:00 a.m. – 12:00 p.m. B1: Algorithms and Methods	9:00 a.m. – 12:00 p.m. C1: Aviation Applications of GNSS
	10:55 a.m. - 12:00 p.m. A1b: Time and Frequency Distribution		
	12:00 p.m.—1:00 p.m. Attendee Luncheon in Territorial Room (4th Floor)		
	1:00 p.m. – 2:35 p.m. A2a: COSMIC/FORMOSAT	1:00 p.m. – 4:00 p.m. B2: Alternative Navigation Sensors and Signals of Opportunity 1	1:00 p.m. – 4:00 p.m. C2: LEO PNT 1
2:50 p.m. – 4:00 p.m. A2b: GNSS-R & GNSS-RO for Environmental Monitoring			
Wednesday April 15	9:00 a.m. – 12:00 p.m. A3: Challenging Navigation Problems 1		9:00 a.m. – 12:00 p.m. C3: Interference and Spectrum 1
	12:00 p.m.—1:00 p.m. Attendee Luncheon in Territorial Room (4th Floor)		
	1:00 p.m. – 2:10 p.m. A4a: QZSS		1:00 p.m. – 4:00 p.m. C4: Interference and Spectrum 2
	2:50 p.m. - 3:40 p.m. A4b: LEO PNT 2		
Thursday April 16	9:00 a.m. – 12:00 p.m. A5: Challenging Navigation Problems 2	9:00 a.m. – 10:35 p.m. B5a: Inertial Navigation Technology and Applications	9:00 a.m. – 12:00 p.m. C5: Space Navigation Technologies
		10:55 a.m. - 12:00 p.m. B5b: Alternative Navigation Sensors and Signals of Opportunity 2	
	12:00 p.m.—1:00 p.m. Attendee Luncheon in Territorial Room (4th Floor)		
	1:00 p.m. – 4:00 p.m. A6: High Precision GNSS Correction and Monitoring Networks	1:00 p.m. – 3:40 p.m. B6: Emerging PNT Consumer Applications	1:00 p.m. – 3:40 p.m. C6: Ionosphere and Troposphere Monitoring with GNSS

ふくい宇宙産業創出研究会 （4月）

- ふくい宇宙産業創出研究会設立10周年記念セミナー（開催日：4/17）へ参加。
- セミナーでは、福井県のこれまでの宇宙への取り組みや、宇宙利活用に関する紹介がされ、パネルディスカッション「宇宙からふくい未来を語る」では、活発な意見交換がなされた。

ふくい宇宙産業創出研究会設立10周年記念セミナー

主催：公益財団法人ふくい産業支援センター、福井県工業技術センター
共催：国立大学法人福井大学、国立大学法人福井大学 産学官連携本部協力会、
国立研究開発法人産業技術総合研究所
後援：ふくいオープンイノベーション推進機構(FOIP)

次 第

日時：令和8年4月17日(金)13:00～17:00
場所：福井県工業技術センター講堂

- | | |
|--|---------------------------|
| 1. 開会挨拶
(公財)ふくい産業支援センター 理事長 | (13:00～13:05)
白崎 淳 |
| 2. 来賓祝辞
内閣府 宇宙開発戦略推進事務局 準天頂衛星システム戦略室 参事官 室長 三上 建治 氏 | (13:05～13:10) |
| 3. 基調講演『宇宙開発利用の新潮流と福井県への期待』
東京大学大学院 工学系研究科 特任研究員／
一般社団法人クロスユー 代表理事 | (13:10～13:50)
中須賀 真一 氏 |
| 4. 特別講演『宇宙における生活圏の拡大』
宇宙飛行士／一般社団法人 Space Port Japan 代表理事 | (13:50～14:10)
山崎 直子 氏 |

休憩 (14:10～14:20)

- | | |
|--|--------------------------|
| 5. 福井県のこれまでの宇宙への取り組み
福井県工業技術センター 新産業創出研究部 部長 | (14:20～14:30)
笹山 秀樹 |
| 6. 宇宙産業界における福井のこれまでの10年の成果と今後の取り組み
ふくい宇宙産業創出研究会 会長
(セーレン株式会社 代表取締役 社長執行役員) | (14:30～14:40)
山田 英幸 氏 |
| 7. ふくい宇宙クロスイノベーション推進拠点の取り組み
福井大学 理事(社会共創)／副学長 | (14:40～14:50)
米沢 晋 氏 |
| 8. 産総研の宇宙利活用もとのコトづくり研究への取り組み
産業技術総合研究所 北陸デジタルものづくりセンター 所長 | (14:50～15:00)
芦田 極 氏 |

休憩 (15:00～15:10)

- | | |
|---|---|
| 9. パネルディスカッション『宇宙から福井未来を語る』
パネリスト：
東京大学大学院 工学系研究科 特任研究員／(一社)クロスユー 代表理事
宇宙飛行士／(一社)Space Port Japan 代表理事
㈱アーケッジ・スペース 代表取締役 CEO
セーレン㈱ 代表取締役 社長執行役員
㈱ネスティ システム開発本部 宇宙ビジネス統括部 統括部長 | (15:10～16:10)
中須賀 真一 氏
山崎 直子 氏
福代 孝良 氏
山田 英幸 氏
白敷 利和 氏 |
| モデレーター：
福井大学 産学官連携本部 客員教授 | 保坂 武文 氏 |
| 10. 閉会挨拶
福井県工業技術センター 所長 | (16:10～16:15)
川邊 和正 |



札幌市 宇宙・半導体セミナーでの講演 (5月)

- 札幌市 宇宙・半導体セミナー（開催日：5/15）へ参加。
- 基調講演とワークショップを実施。
- 講演では、みちびきの高精度測位サービスや信号認証サービス、各種利活用事例を紹介。ワークショップでは、「準天頂ロガーを活用して札幌市で何ができるか」を検討し発表するなど、活発な議論の場となった。

第11回 宇宙・半導体事業における
市内IT産業の可能性を探る！

さっぽろ宇宙・半導体 セミナー

参加無料
5.15 金
15:00~17:00
14:30開場

セミナーテーマ
新しい産業の可能性

場所 札幌市産業振興センター 札幌市白石区東札幌5条1丁目1-1

「宇宙・半導体」をテーマに、札幌市としてできること、新しい産業の可能性を探るため、セミナーで学び、皆さんとの対話でひろがるつながる、産業創出にむけた、ディスカッションします。

基調講演1  中須賀 真一さん 立命館大学 総合科学技術研究機構 教授	基調講演2  三上 建治さん(室蘭市出身) 内閣府宇宙開発戦略推進事務局 準天頂衛星システム戦略室長
座長  上森 規光さん(札幌市出身) HIREC株式会社社長 札幌市宇宙・半導体セミナー エグゼクティブアドバイザー	事例紹介  大野 宏さん エゾウィーン株式会社 CEO

プログラム

15:05 ご来賓挨拶
・ 加藤修さん 札幌市副市長

15:10 基調講演1(Web)
『宇宙開発利用とビジネスの新潮流』
・ 中須賀真一さん
立命館大学総合科学技術研究機構 教授

15:35 基調講演2
『準天頂衛星システムみちびきの今後の展開』
～日本だけの高精度な測位サービスに活用してみませんか in 北海道～
・ 三上建治さん 内閣府宇宙開発戦略推進事務局 準天頂衛星システム戦略室長

16:00 事例紹介
『準天頂衛星の活用事例』
・ 大野宏さん エゾウィーン株式会社CEO

16:15 ワークショップ クループ別・別
『準天頂ロガーを活用して札幌市で何ができるか』
・ 進行役 五嶋耀祥さん ハッピー・ファム合同会社代表

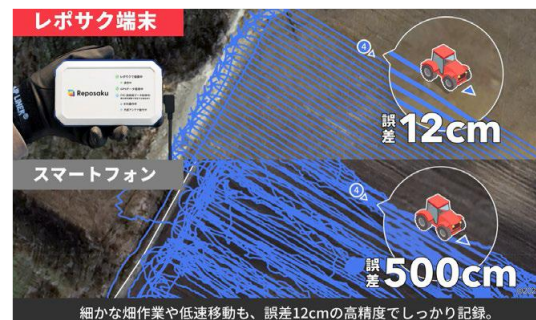
16:55 新年度計画発表
・ 座長 上森規光さん HIREC代表取締役社長
・ 五嶋耀祥さん

宇宙ビジネスを札幌にも 人工衛星「みちびき」の活用策探るセミナー



成長が期待されている宇宙ビジネスを札幌に呼び込むことを目指すセミナーがきょう、開かれました。

※地元ニュースで放映



「みちびきコミュニティ」の開催・登壇（於クロスU）（6月～）

- 昨年度に引き続き、令和8年度の「みちびきコミュニティ」イベント第1弾として、KURUME SPACE INNOVATION が開催。（6/1）
- イベントでは、宇宙ビジネスへの参入や宇宙データの利用について、行政（内閣府、久留米市）、企業（測位・リモセン）、金融機関からの講演及びパネルディスカッションを実施。
- 参加者は90名以上で、終了後のネットワーキングの時間も含め、非常に盛況。



久留米発・宇宙ビジネスキックオフ

KURUME SPACE INNOVATION

衛星データ「みちびき」が拓く、地域ビジネスの未来

2026.06.01 MON
15:00 - 18:10
久留米商工会議所（久留米商工会館）5階 大ホール

【パネルディスカッション1】
宇宙の知見と地域の交差点。
新たなモデル事業の創出へ

株式会社Tehon
代表取締役社長
山崎 秀人

J/A株式会社 常務取締役
(株式会社フォーエックス株式会社 代表取締役)
入江 展親

株式会社Hatal
代表取締役
宮崎 真佐也

株式会社Space Food Lab.
取締役
浅野 高光

MODERATOR

【インプットセッション】

内閣府宇宙開発戦略推進事務局
航天調査システム戦略室 室長
三上 建治

株式会社Tehon
代表取締役社長
山崎 秀人

メー株式会社
代表取締役
根本 雅人

【パネルディスカッション2】
衛星データが変える久留米の地域産業

内閣府 航天調査システム
三上 建治

久留米市
副市長
牧野 浩志

株式会社筑前銀行 営業本部
地域営業チーム 部長代理
柳 充

株式会社Space Food Lab.
取締役
浅野 高光

MODERATOR